

主題：ローマ人への手紙第5章から第8章——聖書の核心

メッセージ 15

恵みの上に恵みを受けて、わたしたちの内側で御座に着いていただくのは、わたしたちが命の中で王と支配して、神の詩である新エルサレムとなるためです。それは、神のエコノミーにおける、神の恵みの究極の、完全な産物です

聖書：ローマ5:10, 17, 21. ヨハネ1:16. エペソ3:2. Iペテロ5:5. ヘブル4:16. 創6:8.
啓22:21

- I. 恵みは、わたしたちの享受であるキリストご自身です。すなわち、恵みとは、命を与える霊である復活したキリストが、ご自身を無代価でわたしたちに与え、わたしたちにとってすべてとなり、わたしたちを通して、わたしたちのために、わたしたちの中であらゆることを行なうことであり、それは、わたしたちが命の中で救われ、命の中で王として支配するためです——ヨハネ1:14, 16-17. IIコリント1:8-9, 12. ガラテヤ2:20. Iコリント15:10. ローマ5:10, 17.
- II. 恵みの増加は、神とわたしたちの主イエスを知る全き知識の中で、わたしたちの日常生活において増加する恵みです。神のエコノミーにおいて神の恵みは、豊富で、増加し、満ちあふれています——Iペテロ1:2後半. IIペテロ1:2. ヨハネ1:16. エペソ1:6-8. 2:7. ローマ5:17, 21. Iテモテ1:14. 啓22:21:
 - A. 恵みは、わたしたちの苦難、制限、弱さを通して増加します。恵みは、わたしたちの重荷を担う方であるキリストです。わたしたちが重荷を持てば持つほど、キリストを恵みとして経験する機会をさらに多く持ちます——IIコリント12:7-9. 参照、1:12, 15.
 - B. 主を恵みとして享受することは、彼を愛する者たちと共にあります——エペソ6:24. ヨハネ21:15-17. Iペテロ1:8.
 - C. 日々、少しずつ、わたしたちは主を増し加わる恵みとして受ける者たちである必要があります。それは、わたしたちが命の中で救われて、わたしたちの内側で満ちあふれる恵みが支配することを通して、命の中で王として支配するためです——ヨハネ1:16. ローマ5:17, 21.
- III. 神のさまざまな恵みが示しているのは、聖徒たちが互いに供給し合う神の恵みの多様性における豊富です——Iペテロ4:10. エペソ3:2:
 - A. 神のさまざまな恵みは、命の豊富な供給であり、それは多くの面でわたしたちの中へと供給される三一の神です——IIコリント13:14. 12:9.
 - B. わたしたちは神のさまざまな恵みの良い家令となって、神の託宣である恵みの言を語り、また神が供給する恵みの強さと力を供給する必要があります——Iペテロ4:10-11. ルカ4:22. エペソ4:29.
 - C. わたしたちが常に覚えていなければならないことは、わたしたちが主を享受することは、自分自身のためにあるのではなく、わたしたちが顧みている人たちのために

あるということです。それは、「あなたがたのために、わたしに与えられた神の恵みの執事職（ギリシャ語、『oikonomia、オイコノミア』）」です——3:2. ルカ11:11-13. ヨハネ4:10. 7:37-38。

IV. 神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与える—— I ペテロ5:5 :

- A. 召会生活において、わたしたちはみな互いに謙その帯を締めて、恵みを与える者として神を享受する必要があります——参照、ヨハネ13:3-5。
- B. 謙そのはわたしたちをあらゆる種類の崩壊から救い出して、神の恵みを招き入れますが、高ぶりはわたしたちを最高の愚か者にします——ヤコブ4:6. 詩138:6. 箴29:23。
- C. わたしたちは彼の取り扱いにおいて、進んで神の大能の御手の下でへりくだり、低くさせられ、わたしたちの人生をその苦勞共々神に投げかけなければなりません—— I ペテロ5:5-7. 参照、詩55:22。

V. 「ですから、わたしたちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか」——ヘブル4:16 :

- A. 疑いもなく、ここで述べられている御座とは天にある神の御座です（啓4:2）。神の御座は全宇宙に対しては権威の御座ですが（ダニエル7:9. 啓5:1）、わたしたち信者に対して、その御座は恵みの御座となり、至聖所の中にある罪を覆う蓋（あわれみの座）によって表徴されます（出25:17, 21. 詩80:1）。この御座は、神と小羊の御座です（啓22:1）。
- B. わたしたちは依然として地上で生きているとき、どのようにして天にある神と小羊（キリスト）の御座に来ることができるのでしょうか？ その秘訣は、ヘブル第4章12節で言及されているわたしたちの霊です。まさに天にある御座に座しているキリストが（ローマ8:34）、今やわたしたちの中に（10節）、すなわち、わたしたちの霊の中におり（II テモテ4:22）、この霊に神の住まいがあります（エペソ2:22）。
- C. ベテルは、神の家、神の住まいであり、また天の門です。そこにおいてキリストははしごであって、地を天に結び付け、天を地にもたらしめます（創28:12-17. ヨハネ1:51）。今日わたしたちの霊は神の住む場所ですから、今や天の門であり、そこにおいてキリストははしごであって、わたしたち地上にいる人々を天に結び付け、天をわたしたちにもたらしめます。ですから、わたしたちは霊に戻るときはいつも、天の門を通して入り、天のはしごとしてのキリストを通して、天にある恵みの御座に触れます。
- D. わたしたちは、主ご自身が栄光の御座、恵みの御座であることを見る必要があります（イザヤ22:23. ヘブル4:16）。わたしたちが恵みにわたしたちの中で王として支配していただくとき、恵みはわたしたちの享受のための神の支配する臨在として（エゼキエル1:22, 26）、わたしたちの内側で王座に着かれます（ローマ5:21）。

VI. 創世記の記録のおもな目的は、墮落を見せることではなく、神の恵みが墮落した人々のためにどれほど多くの事をなし得るかを見せることです :

- A. 神はノアが生きている腐敗した時代の真の状況を彼に見せました——6:3, 5, 11, 13. マタイ24:37-39. II テモテ3:1-3 :
 - 1. 人は最終的に完全に肉となるほど墮落しました（創6:3）。神の最も強く最も邪

悪な敵は、わたしたちの肉です。それは神によって徹底的に絶対的に憎まれました。

2. 旧約において、アマレクは肉を予表していますが、それは墮落した古い人の全体です。アマレクとイスラエルとの戦いは、信者の内側にある肉と、その霊との対立を描いています——出17:8-16. ガラテヤ5:16-17:

- a. 神がアマレクとの絶え間ない戦いを持っているという事実は、神が肉を憎み、それを壊滅させることを願っていることを啓示しています——啓17:16. ガラテヤ5:17。
- b. 肉は変えたり改善したりすることができません。ですから、肉が常にわたしたちと共にあるという事実に心を留める必要があります——ローマ13:14. ガラテヤ5:16。
- c. 神はサタンを憎むのと同様に肉を憎んでいるので、サタンを滅ぼしたいのと同様に肉を滅ぼしたいのです——出17:16. 申25:17-19. サムエル上15:2-3。
- d. わたしたちはとりなすキリストと戦うその霊によってアマレクと戦います。モーセが山頂で手を挙げたことは、昇天したキリストが天でとりなしていることを予表しています。ヨシュアがアマレクと戦ったことは、内住のその霊が肉と戦っていることを予表しています——出17:9, 11, 13. ローマ8:34. ヘブル7:25. ガラテヤ5:17。
- e. アマレクとの戦いにおいて、わたしたちは主と協力する必要がある、それは祈ることによって、とりなすキリストと一になることによって（ローマ8:34）、また肉を死に渡すことによって、戦うその霊と一になることによってです（ルカ18:1. Iテサロニケ5:17. ローマ8:13. ガラテヤ5:16-17, 24)。
- f. 神はアマレクについての記憶を天の下から完全に消し去ってしまうまで、絶えず肉と戦うことを決意しました——出17:14。

B. 創世記第6章8節は言います、「しかし、ノアはエホバの目に恩恵[恵み]を得た」——出17:14:

1. 肉はサタンの傑作であり、サタンと罪と死の「集会場」です。恵みは、わたしたちによって享受される神ご自身であり、わたしたちが肉の状況に直面するのを助けます。
2. 肉はまさにサタンの臨在であり、恵みはまさに神の臨在です。わたしたちはサタンの臨在に直面するために、神の臨在を必要とします。
3. サタンが全力で状況に損害を与えたときは、必ず神の目に恵みを得て、時代を転換させる者たちがいました——参照、ダニエル1:8. 9:23. 10:11, 19:
 - a. 恵みは、わたしたちによって享受された神ご自身、神の臨在であり、それはわたしたちにとってすべてとなり、わたしたちの中で、わたしたちを通して、わたしたちのためにすべての事を行ないます——ヨハネ1:14, 16-17. 啓22:21。
 - b. 主を恵みとして享受することは、彼を愛する者と共にあります——エペソ6:24. ヨハネ21:15-17。
 - c. 三一の神の満ちあふれる供給である主イエス・キリストの恵みは、わたしたちの人の霊を活用することを通して享受されます——ヘブル10:29後半. ガラテ

ヤ6:18. ピリピ4:23. プレモン25. IIテモテ4:22。

- d. 神の言は、恵みの言です——使徒20:32. コロサイ3:16. 参照、エレミヤ15:16。
 - e. わたしたちは一の立場の上で聖徒たちと集会することで、手順を経た三一の神を命の恵みとして経験します——詩133:3. Iペテロ3:7. 使徒4:33. 11:23。
 - f. わたしたちは、苦難と試みのただ中で、拡大し、すべてに十分なわたしたちの恵みとしての主を経験することができます——IIコリント12:9。
 - g. わたしたちは主の恵みの力の中で、主のために労苦する必要があります——Iコリント15:10, 58. 3:10, 12前半。
 - h. 恵みの力、恵みの強さ、恵みの命によって、わたしたちは神とも聖徒たちとも正しくあることができます。客観的な義は恵みとなり、恵みは主観的な義を生み出します——ヘブル11:7. ローマ5:17, 21。
- C. 神はノアにすべてを含む啓示、箱船を建造する啓示を与えましたが、それは神が腐敗した時代を終結させ、新しい時代をもたらす方法でした。彼の働きは時代を変える働きでした——Iコリント2:9. IIコリント6:1. マタイ16:18. Iコリント3:12:
- 1. 箱船はキリストの予表です (Iペテロ3:20-21)。すなわち、それは個人のキリストであるだけでなく、団体のキリスト (キリストのからだ、新しい人であり、究極的に新エルサレムを完成する) でもあります (マタイ16:18. Iコリント12:12. エペソ2:15-16. コロサイ3:10-11. 啓21:2)。
 - 2. 箱船を建造することは、わたしたちの経験において恵みとしてのキリストを建造することであり、それは団体のキリスト、すなわちキリストのからだである召会を建造することへと至ります (Iコリント12:12. エペソ4:11-16)。これは、わたしたち自身の救いを成し遂げることであり、それによってわたしたちはこの曲がったよこしまな世代に対する神の裁きから救われて、新しい時代、千年期の時代へともたらされます (ピリピ2:12-16. ヘブル11:7. マタイ24:37-39. ルカ17:26-27)。
- VII. 神のエコノミーにおける究極の完成された恵みの産物は、神の詩としてのキリストのからだであり、それは新エルサレムとなり、新しい天と新しい地にある神の義の究極的完成となります。神ご自身の豊富はわたしたちの享受のためであって、あらゆる制限を超越し、公に展覽されて永遠に至ります——エペソ2:7-10. IIペテロ3:13. 啓22:21。

キリストにある賜物はアダムにある遺産にまさっている

全宇宙には二人の人しかいません。最初の人にはアダムであり、彼のすべての子孫たちを含んでいます。第二の人はキリストであり、彼のすべての信者から成っています。わたしたち信者たちは、誕生によって最初の人の中に含まれていましたが、再生によって第二の人の一部分となりました。

わたしたちがキリストの中へと信じたことは、わたしたちを最初の人から第二の人の中へと移しました。

わたしたちがキリストの中へと信じることを通して、受けたキリストにある賜物は、プラス面として、人の墮落によるアダムの遺産にはるかにまさっているだけでなく、マイナス面として、その遺産を消し去ります。

人類の会計帳簿における宇宙的な借方と貸方の一覧

アダムにある借方

- 1) アダム
- 2) 違犯（違反や不服従）
- 3) 罪
- 4) 裁き
- 5) 罪定め
- 6) 死

キリストにある貸方

- 1) キリスト
- 2) 服従
- 3) 恵み
- 4) 義の賜物
- 5) 義認
- 6) 命

© 2021 Living Stream Ministry